

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	長崎市みなと漁協地域水産業再生委員会
代表者名	会長 宮崎 国安

再生委員会の 構成員	長崎市みなと漁業協同組合、暁星水産(有)、大豊丸漁業、長崎市、長崎県
オブザーバー	

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	地域の範囲：長崎市みなと漁業協同組合地区内 対象漁業種類： 中型まき網漁業（2経営体）、定置網漁業（1経営体）、 水産加工業（7経営体）、延べ縄漁業（4経営体）、一本 釣漁業（6経営体）
-------------------	---

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

長崎市みなと漁協は、平成17年10月に市内3漁協が合併、更に平成19年4月に外海地区（後、長崎市町村合併）と合併し現在に至る。主力漁業は、まき網、一本釣、及び延べ縄漁業であり、所属漁船は172隻である。
当地区のまき網は2経営体で、取扱量は4,500 t、水揚高は550,000千円である。主に煮干加工原料であるカタクチイワシを漁獲している。
また、外海黒崎地区に定置網漁業者が1経営体あり、取扱量は8.8 t、水揚高は5,290千円である。

(2) その他の関連する現状等

水産資源の減少、燃油の高騰、組合員の高齢化や後継者不足など、漁業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあるが、漁業経営セーフティネット構築事業に加入し、省エネ計画を策定・実施することにより経費削減に取り組んでいる。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

水産業の収益を向上させるため、生産性の向上とコスト削減策に併せて取り組む。

- ①水産物の高付加価値化
 - ・漁獲物の選別
 - ・短期蓄養による魚価の向上
 - ・鮮度・品質の保持
- ②未利用魚の販売促進
- ③漁業コストの削減
 - ・省燃油活動の推進
- ④漁場生産力の向上
 - ・藻場保全など水産資源培養機能の維持、強化
 - ・種苗放流など添加による水産資源の維持、強化
 - ・漁獲努力量の適正管理

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

日本海西部・九州西海域マアジ（マサバ、マイワシ）広域資源管理方針に基づく取り組みとして漁業休漁等を実施する。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成26年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比9.1%向上させる。

以降、以下の取組内容は、取組みの進捗状況や得られた知見等を踏まえ、必要に応じて見直しすることとする。

漁業収入向上のための取組	<p>1 水産物の高付加価値化</p> <p>(1) 漁獲物の選別</p> <p>当地区のまき網漁業は、煮干の加工原料となるカタクチイワシを主に漁獲しているが、カタクチイワシの型が大小不揃いであり、それに加えてアジ、サバ等の鮮魚も一緒に混じって漁獲されている。</p> <p>現在、漁業者は、出荷の際に、これらの漁獲物を魚槽より一旦ホッパータンクに吸い上げた後、そこからコンベアーでくみ上げ、長さ2m30cm、直径6cmの円柱状の鉄製ローラー15本を回転させ、魚を滑らせることで小型のカタクチイワシとそれ以外に選別する。さらに残った混獲物について、長さ1m50cm、直径6cmの鉄製ローラー13本を第1段階と同様に作動させ、中型のカタクチイワシとそれ以外の魚に選別する。最後に残った混獲物について、長さ1m50cm、直径8cmの鉄製ローラー9本を第1段階及び第2段階と同様に作動させ、大型のカタクチイワシとアジ・サバ等の鮮魚に選別することにより、混獲された漁獲物を4種類の大きさに選別している。</p> <p>以上のように混獲物を大型選別機で選別しているが、野外に設置されているため回転部分の腐食が進んでいる。腐食により、ローラーが等間隔で作動できないことや、回転しなくなることがあるため、処理速度が低下しており、漁獲物の鮮度が低下し、魚価にも影響が出ている。加えて、同様の理由により、選別の精度も低下しているため、一部手作業での選別を行っているものの、安い単価で処理せざるをえない状況である。</p> <p>このため、漁協及び漁業者は、漁獲物の鮮度及び魚価を向上させ、出荷に係る漁業者の作業効率を高めるため、選別の精度を向上させるための大型選別機の改良及び大型選別機の効率的な利用について具体的な検討を行う。</p> <p>(2) 短期蓄養による魚価の向上</p> <p>現在、まき網漁業では前日までの漁の状況等を踏まえ大型のカタクチイワシ・アジ・サバ等の漁獲が期待される場合には、活魚用運搬船を同行させ漁獲物を活魚として漁獲された当日に出荷しているが、漁獲の状況により価格が大きく変動し安定した価格での販売が困難な状況にある。現在2基の海上生簀で一部短期蓄養を実施しているが、生簀の数が少ないため、活魚出荷が可能な全ての魚種を混養している状態であり、生存率の低下やスレ等により思うような魚価の向上に繋がっていない。</p> <p>このため、漁業者及び漁協は、漁獲物の品質及び魚価を向上させるため、海上生簀の規模の拡大及び効率的な利用方法（大型カタクチイワシ・アジ・サバ等の魚種別に短期蓄養する等）を具体的に検討する。</p> <p>また、県外のカツオ一本釣漁業者と協議し、加工原料として適していない脂肪分が多いカタクチイワシを活餌として販売することを具体的に検討する。</p> <p>(3) 鮮度・品質の保持</p> <p>現在、漁獲物に使用する氷は、角氷を貯氷庫で保管し、必要に応じて砕氷し、粒氷の状態で使用しているため、箱立ての際に魚体を傷つけることがある。</p> <p>このため、漁協、一本釣漁業者及びはえ縄漁業者は、簡易製氷機を新たに整備して粒氷に換えてクラッシュアイスを使用することにより、漁獲物の鮮度と品質を保持し魚価の向上を図る。</p> <p>2 漁場生産力の向上</p> <p>当漁協管内では、沿岸域でのウニや植食性魚類の増加等により、磯焼け地帯の拡大が進んでおり、磯焼けによる海藻類の減少は、魚介類の資源の減少につながり、沿岸漁業に影響を与えている。</p> <p>このため、漁業者は、ウニ類や植食性魚類の除去等による漁場環境の保全に努める。また、カサゴ等の種苗放流を行い資源の維持・回復を目指す。</p>
--------------	--

漁業コスト削減のための取組	全漁業者は、船底清掃及び減速航行による燃油コストの削減に取り組む。また、エンジン換装をする場合には、省エネタイプのエンジンに換装し省エネを図る。これらの取組みにより、基準年の漁業所得より2.2%の経費削減を目指す。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業経営セーフティーネット構築事業 ・ 産地水産業強化支援事業 ・ 水産多面的機能発揮対策事業 ・ 新生水産県ながさき総合支援事業

2年目（平成27年度）

以下の取組みにより漁業所得を基準年対比12.4%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>1 水産物の高付加価値化</p> <p>(1) 漁獲物の選別</p> <p>当地区のまき網漁業は、煮干の加工原料となるカタクチイワシを主に漁獲しているが、カタクチイワシの型が大小不揃いであり、それに加えてアジ、サバ等の鮮魚も一緒に混じって漁獲されている。</p> <p>漁業者は、混獲物の選別に野外大型選別機を使用しているが、回転部分の腐食により、ローラーが等間隔で作動できないことや、回転しなくなることがあることから、処理速度及び漁獲物の鮮度が低下し、選別の精度も低下している。このため、漁協及び漁業者は、大型選別機の改良（回転部分を鉄製から耐腐食性素材に変更する等）する。これにより選別の精度を向上させ、漁獲物の鮮度及び魚価を向上、並びに出荷に係る漁業者の作業効率の向上を図る。</p> <p>この取組みにより、基準年の漁業所得より0.1%の所得向上を目指す。</p> <p>(2) 短期蓄養による魚価の向上</p> <p>現在、まき網漁業では前日までの漁の状況等を踏まえ大型のカタクチイワシ・アジ・サバ等の漁獲が期待される場合には、活魚用運搬船を同行させ漁獲物を活魚として漁獲された当日に出荷しているが、漁獲の状況により価格が大きく変動し安定した価格での販売が困難な状況にある。現在2基の海上生簀で一部短期蓄養を実施しているが、生簀の数が少ないため、活魚出荷が可能な全ての魚種を混養している状態であり、生存率の低下やスレ等により思うような魚価の向上に繋がっていない。</p> <p>このため、漁業者及び漁協は、漁獲物の品質及び魚価を向上させるため、海上生簀の規模の拡大及び効率的な利用方法（大型カタクチイワシ・アジ・サバ等の魚種別に短期蓄養する等）を具体的に検討する。</p> <p>また、県外のカツオ一本釣漁業者と協議し、加工原料として適していない脂肪分が多いカタクチイワシを活餌として販売することを具体的に検討する。</p> <p>(3) 鮮度・品質の保持</p> <p>一本釣漁業者及びはえ縄漁業者は、整備した簡易製氷機を利用し、粒氷に換えてクラッシュアイスを使用することにより、漁獲物の鮮度と品質を保持し魚価の向上を図る。</p> <p>2 未利用魚の販売促進</p> <p>定置網漁業者は、長崎蒲鉾水産加工業協同組合と協力して漁獲されても投棄されるか魚市場でもほとんど価格がつかないアイゴ、イスズミ等の未利用魚の練り製品化を検討する。</p> <p>3 漁場生産力の向上</p> <p>当漁協管内では、沿岸域でのウニや植食性魚類の増加等により、磯焼け地帯の拡大が進んでおり、磯焼けによる海藻類の減少は、魚介類の資源の減少につながり、沿岸漁業に影響を与えている。</p> <p>このため、漁業者は、ウニ類や植食性魚類の除去等による漁場環境の保全に努める。また、カサゴ等の種苗放流を行い資源の維持・回復を目指す。</p>
--------------	---

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者は、船底清掃及び減速航行による燃油コストの削減に取り組む。 また、エンジン換装をする場合には、省エネタイプのエンジンに換装し省エネを図る。 これらの取組みにより、基準年の漁業所得より2.2%の経費削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業経営セーフティーネット構築事業 ・ 産地水産業強化支援事業 ・ 水産多面的機能発揮対策事業 ・ 新生水産県ながさき総合支援事業

3年目（平成28年度）

以下の取組みにより漁業所得を基準年対比14.4%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1 水産物の高付加価値化</p> <p>(1) 漁獲物の選別</p> <p>当地区のまき網漁業は、煮干の加工原料となるカタクチイワシを主に漁獲しているが、カタクチイワシの型が大小不揃いであり、それに加えてアジ、サバ等の鮮魚も一緒に混じって漁獲されている。 漁業者は、前年度整備した野外大型選別機を使用し漁獲物の鮮度及び魚価を向上、並びに出荷に係る漁業者の作業効率の向上を図る。 この取組みにより、基準年の漁業所得より0.2%の所得向上を目指す。</p> <p>(2) 短期蓄養による魚価の向上</p> <p>まき網漁業では、漁獲物のうち、大型カタクチイワシ・アジ・サバ等を活魚として漁獲された当日に出荷しているが、漁獲の状況により価格が大きく変動し安定した価格での販売が困難な状況にある。 このため、漁協及び漁業者は、現在設置されている2基の海上生簀に加え、さらに2基設置する。加えて、大型カタクチイワシ・アジ・サバ等の魚種別に短期蓄養を行い、漁獲物の品質及び魚価の向上を図る。 また、県外のカツオ一本釣漁業者と協議し、加工原料として適していない脂肪分が多いカタクチイワシを活餌として販売する。 これらの取組みにより、基準年の漁業所得より0.4%の所得向上を目指す。</p> <p>(3) 鮮度・品質の保持</p> <p>一本釣漁業者及びはえ縄漁業者は、整備した簡易製氷機を利用し、粒氷に換えてクラッシュアイスを使用することにより、漁獲物の鮮度と品質を保持し魚価の向上を図る。</p> <p>2 未利用魚の販売促進</p> <p>定置網漁業者は、長崎蒲鉾水産加工業協同組合と協力して漁獲されても投棄されるか魚市場でもほとんど価格がつかないアイゴ、イスズミ等の未利用魚の練り製品化を具体的に検討する。</p> <p>3 漁場生産力の向上</p> <p>当漁協管内では、沿岸域でのウニや植食性魚類の増加等により、磯焼け地帯の拡大が進んでおり、磯焼けによる海藻類の減少は、魚介類の資源の減少につながり、沿岸漁業に影響を与えている。 このため、漁業者は、ウニ類や植食性魚類の除去等による漁場環境の保全に努める。また、カサゴ等の種苗放流を行い資源の維持・回復を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者は、船底清掃及び減速航行による燃油コストの削減に取り組む。 また、エンジン換装をする場合には、省エネタイプのエンジンに換装し省エネを図る。 これらの取組みにより、基準年の漁業所得より2.2%の経費削減を目指す。</p>

活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業経営セーフティーネット構築事業 ・ 産地水産業強化支援事業 ・ 水産多面的機能発揮対策事業 ・ 新生水産県ながさき総合支援事業
-----------	--

4年目（平成29年度）

以下の取組みにより漁業所得を基準年対比16.6%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>1 水産物の高付加価値化</p> <p>(1) 漁獲物の選別</p> <p>当地区のまき網漁業は、煮干の加工原料となるカタクチイワシを主に漁獲しているが、カタクチイワシの型が大小不揃いであり、それに加えてアジ、サバ等の鮮魚も一緒に混じって漁獲されている。</p> <p>漁業者は、野外大型選別機を使用し漁獲物の鮮度及び魚価を向上、並びに出荷に係る漁業者の作業効率の向上を図る。</p> <p>この取組みにより、基準年の漁業所得より0.2%の所得向上を目指す。</p> <p>(2) 短期蓄養による魚価の向上</p> <p>まき網漁業者は、整備した海上生簀4基を用い、大型カタクチイワシ・アジ・サバ等の魚種別に短期蓄養を行い、漁獲物の品質及び魚価の向上を図る。</p> <p>さらに、県外のカツオー一本釣漁業者と協議し、加工原料として適していない脂肪が多いカタクチイワシを活餌として販売する。</p> <p>これらの取組みにより、基準年の漁業所得より0.4%の所得向上を目指す。</p> <p>(3) 鮮度・品質の保持</p> <p>一本釣漁業者及びはえ縄漁業者は、整備した簡易製氷機を利用し、粒氷に換えてクラッシュアイスを使用することにより、漁獲物の鮮度と品質を保持し魚価の向上を図る。</p> <p>2 未利用魚の販売促進</p> <p>定置網漁業者は、長崎蒲鉾水産加工業協同組合と協力して漁獲されても投棄されるか魚市場でもほとんど価格がつかないアイゴ、イスズミ等の未利用魚の練り製品を販売する。</p> <p>この取組みにより、基準年の漁業所得より14.2%の所得向上を目指す。</p> <p>3 漁場生産力の向上</p> <p>当漁協管内では、沿岸域でのウニや植食性魚類の増加等により、磯焼け地帯の拡大が進んでおり、磯焼けによる海藻類の減少は、魚介類の資源の減少につながり、沿岸漁業に影響を与えている。</p> <p>このため、漁業者は、ウニ類や植食性魚類の除去等による漁場環境の保全に努める。また、カサゴ等の種苗放流を行い資源の維持・回復を目指す。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>全漁業者は、船底清掃及び減速航行による燃油コストの削減に取り組む。</p> <p>また、エンジン換装をする場合には、省エネタイプのエンジンに換装し省エネを図る。</p> <p>これらの取組みにより、基準年の漁業所得より2.2%の経費削減を目指す。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業経営セーフティーネット構築事業 ・ 産地水産業強化支援事業 ・ 水産多面的機能発揮対策事業 ・ 新生水産県ながさき総合支援事業

5年目（平成30年度）

以下の取組みにより漁業所得を基準年対比16.6%向上させる。

取組みの最終年度であり、前年度に引き続き行いが、目標達成が確実なものとなるよう、プランの取組み状況を確認しつつ、必要に応じて施策の見直しを行う。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1 水産物の高付加価値化</p> <p>(1) 漁獲物の選別</p> <p>当地区のまき網漁業は、煮干の加工原料となるカタクチイワシを主に漁獲しているが、カタクチイワシの型が大小不揃いであり、それに加えてアジ、サバ等の鮮魚も一緒に混じって漁獲されている。</p> <p>漁業者は、野外大型選別機を使用し、漁獲物の鮮度及び魚価を向上、並びに出荷に係る漁業者の作業効率の向上を図る。</p> <p>この取組みにより、基準年の漁業所得より0.2%の所得向上を目指す。</p> <p>(2) 短期蓄養による魚価の向上</p> <p>まき網漁業者は、整備した海上生簀4基を用い、大型カタクチイワシ・アジ・サバ等の魚種別に短期蓄養を行い、漁獲物の品質及び魚価の向上を図る。</p> <p>また、県外のカツオー一本釣漁業者と協議し、加工原料として適していない脂肪分が多いカタクチイワシを活餌として販売する。</p> <p>これらの取組みにより、基準年の漁業所得より0.4%の所得向上を目指す。</p> <p>(3) 鮮度・品質の保持</p> <p>一本釣漁業者及びはえ縄漁業者は、整備した簡易製氷機を利用し、粒氷に換えてクラッシュアイスを使用することにより、漁獲物の鮮度と品質を保持し魚価の向上を図る。</p> <p>2 未利用魚の販売促進</p> <p>定置網漁業者は、長崎蒲鉾水産加工業協同組合と協力して漁獲されても投棄されるか魚市場でもほとんど価格がつかないアイゴ、イスズミ等の未利用魚の練り製品を販売する。</p> <p>この取組みにより、基準年の漁業所得より14.2%の所得向上を目指す。</p> <p>3 漁場生産力の向上</p> <p>当漁協管内では、沿岸域でのウニや植食性魚類の増加等により、磯焼け地帯の拡大が進んでおり、磯焼けによる海藻類の減少は、魚介類の資源の減少につながり、沿岸漁業に影響を与えている。</p> <p>このため、漁業者は、ウニ類や植食性魚類の除去等による漁場環境の保全に努める。また、カサゴ等の種苗放流を行い資源の維持・回復を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者は、船底清掃及び減速航行による燃油コストの削減に取り組む。</p> <p>また、エンジン換装をする場合には、省エネタイプのエンジンに換装し省エネを図る。</p> <p>これらの取組みにより、基準年の漁業所得より2.2%の経費削減を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業経営セーフティネット構築事業 ・ 産地水産業強化支援事業 ・ 水産多面的機能発揮対策事業 ・ 新生水産県ながさき総合支援事業

※プランの実施期間が6年以上となる場合、記載欄は適宜増やすこと。

※「活用する支援措置等」欄に記載するのは国の支援措置に限らない。

(4) 関係機関との連携

長崎市、長崎県県央水産業普及指導センターの指導、協力のもと取組みを推進する。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上	基準年	平成 年度 :	千円
	目標年	平成 年度 :	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築事業	燃油高騰による漁業経費の増加に備えることにより、漁業経営の安定を図る。
産地水産業強化支援事業	設備等を整備し、漁業活動の効率化を図る。
水産多面的機能発揮対策事業	ウニ類や植食性魚類の除去等により、漁場環境の保全を図る。
新生水産県ながさき総合支援事業	設備等を整備し、漁業活動の効率化を図る。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。